

## [講演要旨] 1707年宝永地震, 1854年安政地震による城の被害

### : 「常陸笠間 牧野家文書」中にみえる宝永地震による三河吉田城の被害

中西一郎 (京都大学 理学部 地球物理学教室)

#### 1. はじめに

「常陸笠間 牧野家文書」(茨城県笠間市笠間稲荷神社所蔵)の調査を行っている。牧野家は、下総国関宿(千葉県野田市)(天和3年)、三河国吉田(愛知県豊橋市)(宝永2年)、日向国延岡(宮崎県延岡市)(正徳2年)、常陸国笠間(茨城県笠間市)(延享4年)と転封し、笠間に幕末まで在封した。従って、「牧野家文書」から、1703年元禄地震、1707年宝永地震、安政東海道地震、安政江戸地震、日向灘や関東地方の地震に関する史料が得られる可能性がある。

#### 2. 吉田城の宝永地震被害報告絵図

図1の「御城御破損所御伺絵図」は幕府へ報告した被害絵図の控と思われる。図1は全体図ではなく、城(本丸、二之丸、三之丸)だけを示しており、被害状況に関する記述は図の外にある。図1には、「本丸」に本丸御殿の配置が書かれており、横に「御殿向不残夥敷損申候」と書かれている。本丸御殿はその後再建されることはなかった。正保元年～宝永3年(1644～1706)作成の「吉田城図」には、本丸御殿の配置が明示され、「御本丸」と書かれている。



図1. 御城御破損所御伺絵図(城).

上:南, 下:北, 右:西, 左:東.

図2は図1の下部にある17ヶ所の被害記述を示す。図2では明瞭でないが、門・馬屋・櫓の「潰」が6ヶ所、門・櫓の「倒掛」が4ヶ所、石垣の「崩」が6ヶ所、土居・土塀の「崩」が2ヶ所示されている。

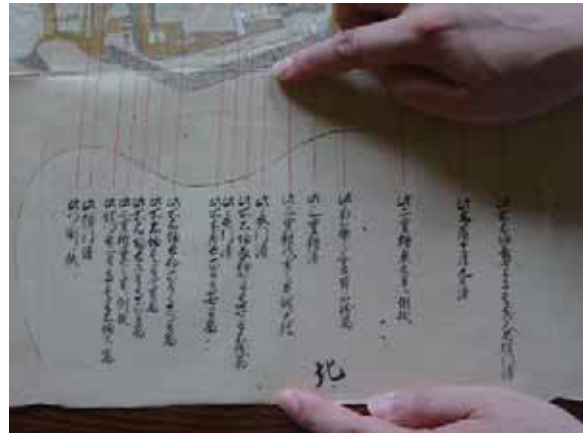


図2. 御城御破損所御伺絵図(被害の記述).

本丸、二之丸、三之丸にあった御殿、門、蔵等はすべて倒壊または大破、櫓は倒壊または倒れかかった。

#### 3. 『楽只堂年録』にある吉田城の被災記録

柳沢吉保の実録である『楽只堂年録』には、元禄地震・宝永地震のときの、各藩主、旗本、代官から幕府への被害届がまとめられており、両地震の全体像を大局的にみるには都合が良い。「御城御破損所御伺絵図」の吉田城被害を『楽只堂年録』の吉田城被害と比較した。比較の結果、両被害記録は少し違っているように思われる。特に二之丸の被害に違いがある。前者の二之丸被害をまとめると、「二之丸御殿残らず大破、門倒壊1、倒れかかり1、櫓倒れかかり3、蔵大破2、長屋倒壊1、土塀残らず崩壊1」となった。一方、後者では「二之丸追手門倒れかかり1、屋禰所々破損1、土塀残らず崩1」であった。『楽只堂年録』には、本丸御殿が大破したことは書かれているが、二之丸御殿に関する記載はない。

1703年元禄地震、1707年宝永地震の全体像に関して、『楽只堂年録』への依存度が大きい。各藩および地方史料と『楽只堂年録』の比較が必要と思われる。

謝辞: 史料調査の許可を下さった太田寿男氏、史料調査の補助・助言をして下さった成田元也氏、調査計画への助言を下さった増山真一郎氏に感謝致します。